

## 夏の北海道で若年性認知症の仲間と一緒に走る！

～「第47北商ロードレース・参加者調査からのレポート～

若年性認知症本人が一般ランナーとマラソンを通じて触れ合うことで、本人の視野が広がり“本人が社会化する一つのきっかけ”になったとともに、家族にとっては本人のいつもと違う面（新たな面）を発見するよい機会となったようだ。

また若年性認知症の社会理解が遅れている中、一般ランナーが本人と一緒に走るというこの初めての試みは 認知症に対する偏見の軽減や社会啓発する効果は大きく 今後の地域の野外イベントとリンクした社会活動の指針になるといえよう。

◆北海道の道央に位置する空知郡北竜町で 今年8月21日(日)に実施されたマラソン大会「第47回北商ロードレース」に、若年性認知症の本人とその家族が出場した。  
マラソン大会に若年性認知症本人が参加するこの初めて試みについて、エーザイ株式会社と株式会社ジャパン・マーケティング・エージェンシーは共同で、その効果と認知症理解のための社会的意義を検証する調査を行った。

### ◆調査概要：

- (1) マラソン一般参加者:41名→マラソン終了後自記入式アンケート調査
- (2) 若年性認知症本人4名およびその家族  
→自記入式アンケート調査およびインタビュー



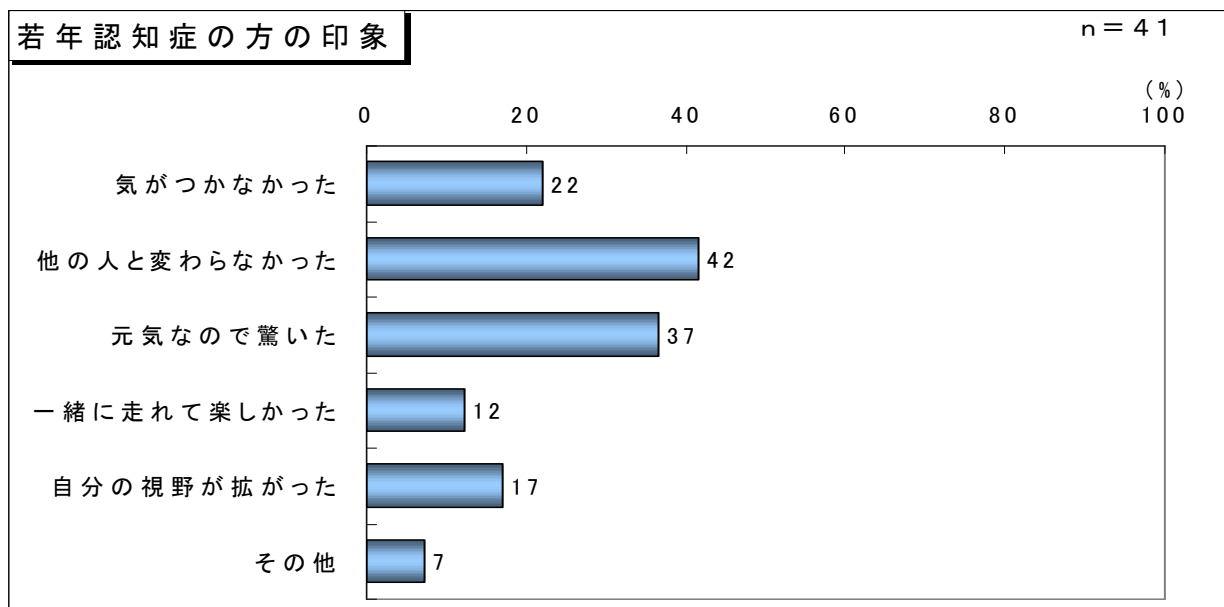
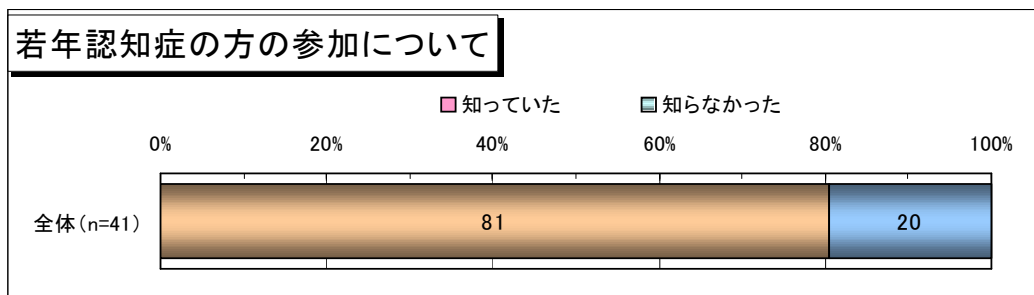
## I.一般ランナーの若年性認知症の理解

### ●若年性認知症本人に対する一般ランナーの印象は、 「他の人と変わらない」「元気で驚いた」など好印象。

マラソン終了後、当該マラソンへの若年性認知症本人方の参加について全体の80% (33名) が「知っていた」と回答。

認知症本人に対する印象は、「他の人と変わらなかった」が42% (15名)、「元気なので驚いた」37% (9名)。「気がつかなかった」者は22% (9名)であった。

\*今大会に若年性認知症本人、家族及びサポーターはオレンジのサンバイザーを全員着用、大会開会時認知症の本人がマラソンに参加する旨のアナウンスをしていた。

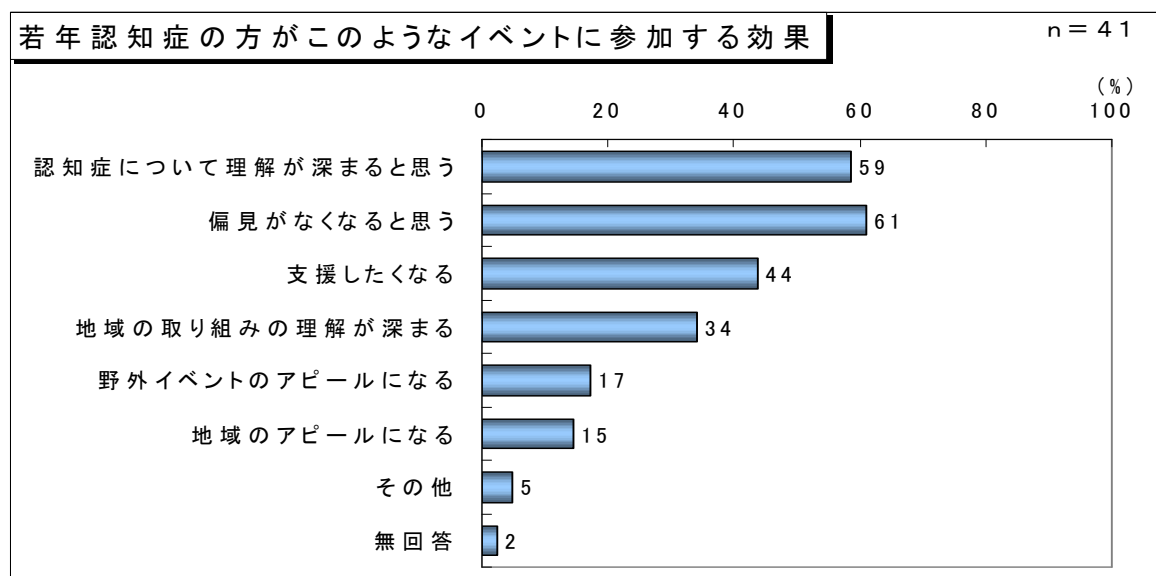
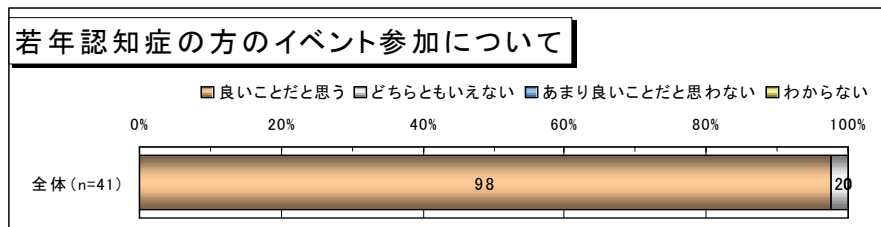
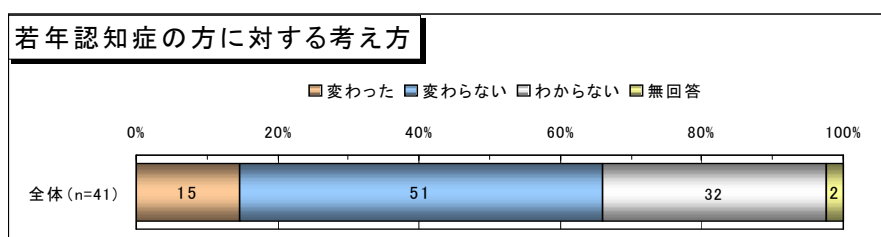


## I.一般ランナーの若年性認知症の理解

### ●本人のイベント参加についても「認知症への理解が深まる」「偏見がなくなる」などポジティブな意見が目立つことから、本人の大会参加による社会的啓発・インパクトはあった。

認知症本人に対する意識について、「変わらない」「わからない」との回答が83%(34名)であったが、「変わった」と回答した者(6名)は、「走るのに差がない」「やっぱり色々やればできるし、チャレンジは必要」「若年認知症の方も一般の方と同じ行動に参加することは大変良いと思う」など、“想像よりも何でもできる”ことが理解されたようであった。

認知症本人のイベント参加については、ほとんどの者が「良いことだと思う」と評価(98%40名)。認知症本人のイベント参加の効果は、「偏見がなくなる」61%(24名)、「認知症への理解が深まる」59%(24名)、「支援したくなる」44%(18名)とポジティブ意見が目立った。



## I. 一般ランナーの若年性認知症の理解

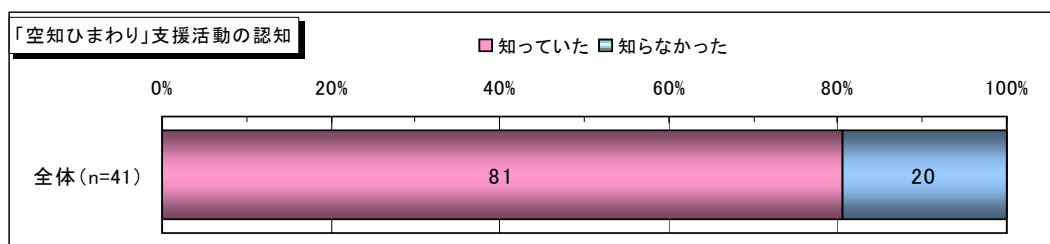
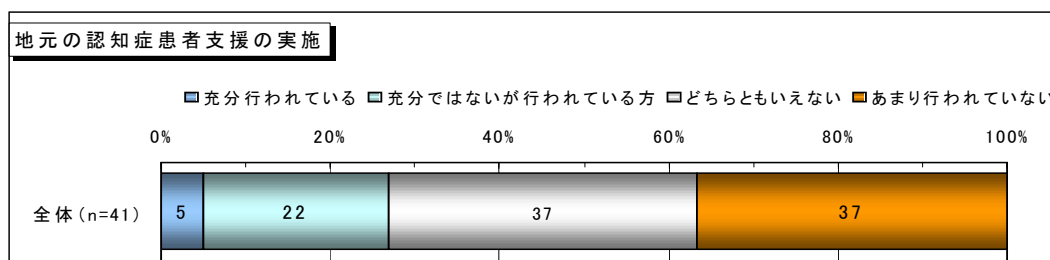
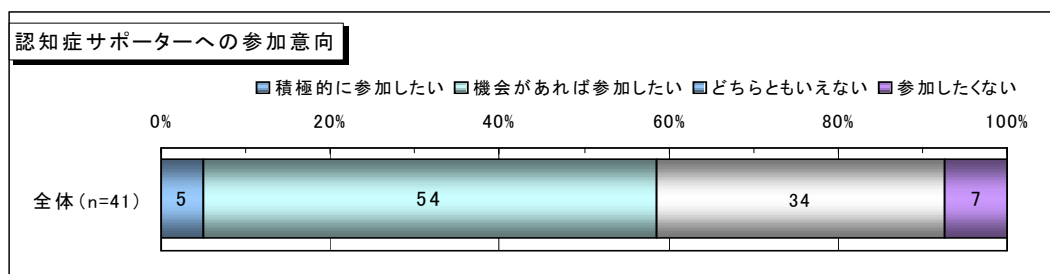
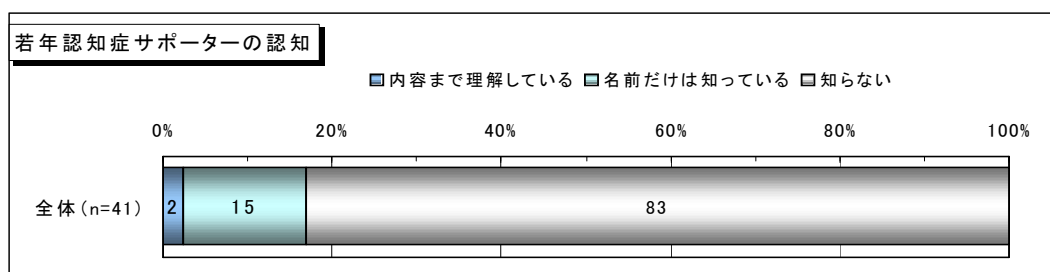
### ●地元の支援活動についての認知度はまだまだ。しかし認知理解した後の参加意向についてはポジティブな反応。

一般ランナーの「認知症サポーター」の認知度は低く、「知らない」と回答した者が83% (34名)。サポーター参加については、59% (24名)と半数以上が意向を示した。

\*「認知症サポーター」: 認知症について正しい理解を持ち、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者。

地元の認知症患者支援活動に対しては、「どちらともいえない」「あまり行われていない」と回答した者が全体の73% (30名)と地域の支援活動は未だ不十分との回答が多い。

「空知ひまわり」という地元の家族会の支援活動に対する認知も低く、「知らなかった」と回答した者が93% (38名)であった。



## II・若年性認知症本人&家族への効果～アンケート

●本人の今大会に対する回答(本人事後アンケート)では、ほとんどの者が「楽しかった」「非常によかった」と満足しており、今後の参加意向も高かった。

但し1名(女性)は、大会参加について「楽しなかった」「参加したくない」と回答。消極的的回答となった理由としては、「本人が大会に参加しておらず、家族が参加し、彼女は応援側であったこと」「本人のマラソンに対する関心が低かったこと」が考えられる。

今後参加したい活動としては、「旅行」や「スポーツ」、「ハイキング」など 体を動かす活動への意向が高い。

◆本人アンケート(n=4)より 男性3名/女性1名。 50代1名/60代2名/70代1名。

大会参加について n=4	
非常に楽しかった	2
まあ楽しかった	1
あまり楽しなかった	1

大会参加の感想 n=4	
非常によかった	3
まあよかった	1

今後の参加意向 n=4	
積極的に参加したい	2
機会があれば参加したい	1
参加したくない	1

今後参加したい活動 n=4			
旅行	4	カラオケ大会	1
スポーツ	3	趣味の会	1
ハイキング	3	料理教室	1
食事会・飲み会	2		
働く場・機会	2		

## II.若年性認知症本人&家族への効果～インタビュー

●今大会では、サポーターの支援をベースに「完走を目指してチャレンジする意欲」と「完走した後のやり遂げたキモチ」を味わえる点が、他のイベントとの大きな違い。「最後まで走ることでの自信」、「サポーターや周囲の参加者とのコミュニケーションを通じての楽しいキモチ」など本人に対する効果は、家族からもポジティブに受け止められていた。

家族においても、本人が社会参加することで普段と違う表情(常に笑顔/会話の活性化等)を見せチャレンジしている姿は 大きな発見と喜びであった。また病状が進むことで、トイレやお風呂の問題が生じ、夫婦のみでは旅行に出かけられないといった不満もあることから、今回のようなイベントは、家族にとっても良い気分転換となるとの発言も多く見られた。

「人との接触が多くなり会話も多く楽しそうにしていたのでいい刺激になったと思う。私にはできないことでありがたい」(家族)。「本人の笑顔がたくさんあり、生き生きしている。何かしている方がよい効果があると思う」(家族)。

### 【本人への効果】

#### 大会の効果

また参加したいキモチ

楽しいキモチ/視野が広がった/元気が出てきた→自信がでてきた

サポーターとの  
コミュニケーション

みんなで走ること

完走できた

チャレンジする意欲

本人の違う面を発見→“気づき”があった(家族)

サポーター(家族)からの支援(応援、励まし)

「終わった時によかったと言われたことがよかった」(本人)

「チャレンジする、できたことで自信がついた」(本人)

「苦しいことに対してチャレンジする事、キモチが相手に伝わる事が大切だと思う」(本人)

「相手と話し合いながら大会に参加するのは楽しかった」(本人)

「途中で苦しくてやめたいと思ったが、完走してよかった」(本人)

「何とか完走したのでよかった」(家族)

## 付)当大会についての意見・感想

●大会への意見・ボランティアへのメッセージでは、大会主催者、ボランティアへの感謝の言葉と共に、本人、支援者参加に対する共感及び今後の支援意向を示す声が散見された。

### 【生の声】

「がんばってください。また来ます」

「楽しかった。暑くて大変ですが、これからもがんばってください」

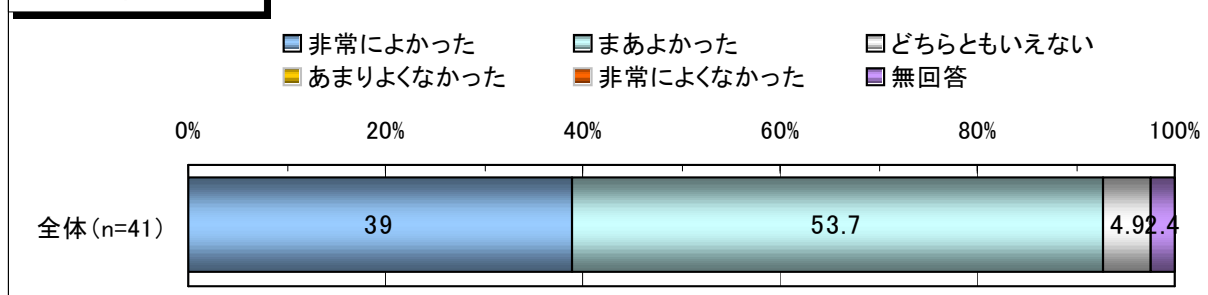
「大変良い大会だと思います。今後も続けてほしい」

「ランナーが安心、安全に走ることができ、感謝している」

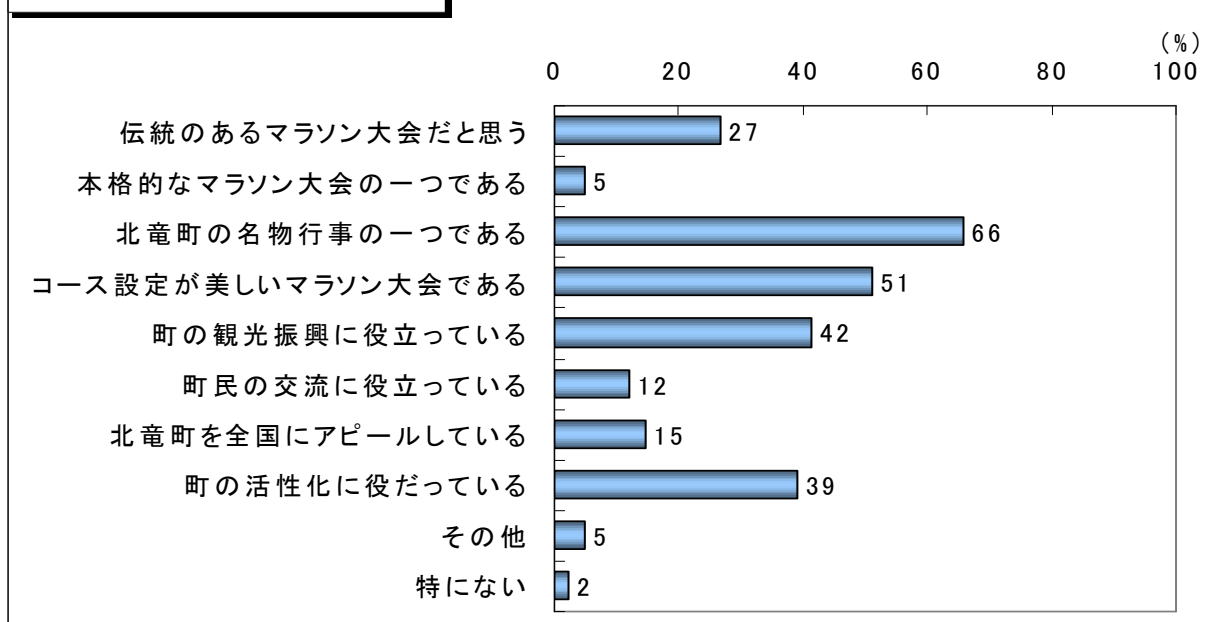
「ボランティアが参加することを知っていれば応援しました。カンパ募ってもいいのでは？」

「こういうボランティアの方が参加するレースはとても良い活動。私もできるだけ応援、支援したいと思いました」

### 大会全体の評価



### 大会に参加して思ったこと





---

**本件に関するお問い合わせ先**

**株式会社 ジャパン・マーケティング・エージェンシー**  
**企画部 菅原 祥道**

**Tel : 03-3496-0131 Fax : 03-3464-7996**  
**E-mail : [sugahara@jma-net.com](mailto:sugahara@jma-net.com)**  
**URL : <http://www.jma-net.com>**

